

予算決算福祉文教小委員会審査報告書

令和元年 9 月 17 日

予算決算常任委員会委員長 風 間 行 男 様

福祉文教小委員会委員長 石 川 信 雄

本小委員会に付託された事件についての審査内容及び経過、意見等を次のとおり報告します。

事件の番号	付託内容
議案第 54 号	平成 30 年度一般会計歳入歳出決算中 民生費、衛生費、 <u>労働費</u> （シルバー人材センター運営事業）、 教育費及び関係歳入について

当小委員会では、上記付託議案について、説明員から詳細な説明を受けながら活発な質疑を行い、審査を行いました。

次に主な質疑、意見について報告します。

■ 住民環境課

【民生費】

質疑なし

【衛生費】

質疑①：苦情、相談受付件数のその他がかなり増えているが、相談の内容は何か。

回答①：架空請求ハガキについての相談が一番多い。実際に町内で被害が 1 件確認されている。消費者庁への情報提供や交番とも連携し対応している。詐欺は多様化、複雑化してきている。

質疑②：以前は、県の消費生活サポーター養成講座の修了者を会員として消費者団体が組織化されていた。今後に向け、若い方向けの研修会を開催するなど、組織化の方策は。

回答②：この講座は現在行われておらず、県に開催をお願いした経緯もある。牟礼

消費者の会は会員確保のため、牟礼区の若い方を対象に活動内容の紹介などをして新規会員を募っていたが、加入にはつながらなかったと聞いている。

質疑③：以前のやり方にこだわらず、町独自の勉強会等を開催して参加者を会員とするという手もあると思う。今現在、各種研修会の参加者の状況は。

回答③：町内に「消費生活サポーター」が4人登録されていると聞いており、県の研修会に参加しているようである。担当職員もできるだけ研修会等には参加している。職員が研修会に参加する際に希望があれば同行していただくことは可能だと思う。

質疑④：狂犬病予防接種で、犬の登録数と注射実施数に差があるが、これは個人で病院へ行っているということか、それとも注射をしていない犬がいるということか。また、未注射の犬の飼い主へ勧奨はしているか。

回答④：実際には犬が死亡しているケースも結構ある。未注射犬の飼い主に対しては、必ず注射を受けるよう督促ハガキを送り接種を促している。

質疑⑤：可燃ごみ収集量等の情報について、今は無線放送で情報提供されているが、記憶に残りやすいよう毎月の広報紙に文字で掲載することはできないか。

回答⑤：可能だと思う。

■保健福祉課

【民生費】

質疑①：飯綱町多世代交流施設設計意図伝達業務委託の内容はどのようなものか。

回答①：平成 29 年度に設計業務を(株)アイエーディーが受託し設計業務は完了したが、平成 30 年度の建築工事に伴う監理業務は、入札により(株)湯本建築設計が受託したことから、その監理業務受託者に詳細な設計内容を伝達する必要が生じたため、設計業務を行った(株)アイエーディーと意図伝達業務を委託契約したもの。

意見②：飯綱町版生涯活躍のまち推進事業支援業務委託において、事業や業務ごとに内容、参加者などの詳細情報を記入しておいた方が良いのではないか。

【衛生費】

質疑①：保健補導員会事業費について、「保健補導員会は、毎月学習会など行っており、それを地域に反映していただく」という説明もあったが、保健補導員活動の表記中にいきいきサロン運営協力とある。保健補導員はどのように協力しているのか。

回答①：各地区においていきいきサロンの活動をされているが、保健補導員が参画し、一緒に行っている地区もあるので記載している。保健補導員が運営主体ではない。

質疑②：健康教室などで学習したことを持ち帰り地域で普及しているということだ

が、そういうことはあまり見受けられない感がある。いきいきサロンに年に何回か来ていただけるような働きかけはできないか。

回答②：保健補導員会の会合が月に1回程度のペースであるので、そのようなご意見があったということで参画の要請をしていきたい。

質疑③：健診や予防事業を行っているが国や県からの支出金が少ない。保健補導員会事業や食育推進事業、母子保健事業などの独自事業も、一般財源ではなく活用できる補助はないか。

回答③：補助事業を活用できるものについては活用している。母子保健事業の妊婦一般健康診査は過去には補助事業だったが、現在は普通交付税でその経費が算定される形になっている。また、予防接種費のA類の疾病予防接種は、おおむね9割は普通交付税として経費が算定されている。法定で実施する事業については普通交付税で算定されており、施策的や試行的に実施している事業については補助事業化されているものが多い。

質疑④：飯綱町総合健診、旧住民人間ドックは普通の人間ドックと内容は変わらないと思うが、2年に1回のドックとなっている。毎年受けることができるような体制にできないか。

回答④：健診状況により予算措置も伴うことから現行でお願いしたい。

質疑⑤：圧迫骨折の方がとても多いと思う。20歳までにカルシウムを摂取し、日に当たり、骨に負荷が掛かる適度な運動をするなどして、その後をいかに保っていくかという話を聞くにあたり、今の若い人たちは外に出て遊ばなくなっている。子どもたちも骨折しやすくなっている状況を見ると、今後、年齢を重ねていった場合、とても大きな不安が出てくる。子どもたちに対して、この辺りの知識を持ってもらうような取組はされているのか。

回答⑤：学校の養護教諭から話がされているとは思いますが、健康推進係では把握していない。10月に食育の連絡会があり、養護教諭または教頭先生などが出席されるので、そのような取組がされているか確認をしたい。教育がされていないとなれば、知識の普及をお願いしたいと思う。

質疑⑥：自殺の予防ということで聞くが、飯綱町は自殺が多い町だと思う。今までの取組で自殺は減ったか。

回答⑥：人口10万人当たりの自殺死亡率を比較すると、当町における平成30年度の自殺者は3名で26.49%となり、全国平均が18%程度であることから、3名亡くなると国、県を上回る状況になる。また、2名亡くなると国、県平均と同程度となる。ここ数年の自殺者数は、平成27年度は2名、28年度は3名、29年度は2名、30年度は3名という状況である。

【労働費（シルバー人材センター運営事業）】

質疑なし

■教育委員会

【民生費】

□児童福祉費、保育園費、子育て支援センター費等

質疑①：子育て相談の状況にある発達・発育の相談について、一人平均何回くらいの相談があるのか。

回答①：3回の相談がある。

質疑②：行政報告書内の園児と児童の表記の違いは。

回答②：児童福祉法では18歳未満を児童と定めているが、行政報告書では特に区別して使用はしていない。

意見③：町では、子育て支援ということで様々な事業を行っている。しかし、その支援が公費に占める割合を考えている人はいるのか。園児一人当たり年間80万円を超える公費が充てられている。どのくらいの公費で支援を行っているのかしっかり示してもらいたい。この「平成30年度児童一人当たりの状況」の表はとても良い。今後、小学生、中学生についても同じような表を入れていただきたい。

回答③：検討する。

質疑④：さみずっ子保育園に再生可能エネルギーの利用とあるが、どのくらい節電になっているのか。

回答④：従来は、電気、灯油、ガスを使用していたが、電気だけになったことで電気のみを見ると量は増えているが、灯油とガスの使用がないことから総体的なエネルギーは減っている。

意見⑤：親子ふれあい教室について、実施状況を表に示してもらいたい。

質疑⑥：一時保育について、前年と比べ利用者数が減り、一時保育の理由についても前年度と内容が変わっているがなぜか。受入側の状況か。

回答⑥：受入側の都合ということではない。預ける側が少なくなった。また、平成29年度は保育園の定員がいっぱいで一時保育で対応をしていた。平成30年度は入所で対応できたので一時保育が減った。

質疑⑦：行政報告書には目標と比べてどうかの記載がなく評価が難しい。きめ細やかな切れ目のない子育て総合応援事業について、執行率が低いがどうか。

回答⑦：病後児保育が見込みより利用者が少なかったため、保育士等の人件費がかからなかったため執行率が低かった。

質疑⑧：児童クラブの執行率が低いがどうか。

回答⑧：西児童クラブの移転費が見込みより低額でできたこと。また、小学校の統合で、利用する児童クラブや利用数により人件費が減になったことが主な理由である。

質疑⑨：予算を100%執行したからといって良いとは言っていない。最小の経費で最大の効果を出すことだと考えている。仕事の出来高をどうやって見るのか。それを評価できるものが行政報告書にない。目標があるとどのくらい到達できたかが分かる。これからは目標を設定してはどうか。

回答⑨：行政報告書の役割と目標に対しての評価は切り分けて考えてもらいたい。

目標に対しての評価は、行政全体の目標の評価になる。その目標達成のためにいろいろな施策があるので、総合的に絡み合っただけで目標が達成されたかという検証になってくる。目標に対してどうだったかは行政評価を行っている。

質疑⑩：児童クラブの今後の課題で危機管理体制の構築とあるが、その体制を作るために利用者数に対して何人の指導員の配置が必要か。

回答⑩：配置については国の基準があり、それに基づいて行っている。一施設に最低2名配置している。危機管理については、不測の事態や不審者などの対応を今後の課題として挙げた。危険回避のために緊急通報装置等を検討する。

質疑⑪：指導員が2名ということは理解したが、果たして女性2名で危機管理体制が十分なのか。男性の指導員を配置できないか。

回答⑪：男性の指導員はいるが、少人数のため常に配置ができず女性だけの配置もある。それを補完するため、緊急通報装置や避難訓練、危機管理マニュアルなど、危険回避について検討していく。

質疑⑫：子どもの障がいについては、早めに発見し、早めに支援することで社会生活がスムーズに送れる。その機会が早く得られるように、また多くの人が障がいについて考えられるような環境づくりの取組を強めてもらいたい。子どもの場合は、早めに加配保育士をつけることで困難を克服したり、状況を改善したりすることができる。そういう機会を失ってしまうことのないよう行政として努力してほしい。

回答⑫：町として、インクルーシブ教育に取り組んでいく。支援員、介助員は、保育園と小学校低学年は厚く配置するようにしている。1対1の安定した環境で特性を理解し、その子が集団になじんでいくよう補助するが、子どもの成長に合わせて行い、中学校では自分で集団の中で生活できるように考えている。

質疑⑬：子どもが小さい時は保護者や家族の理解がないと支援が難しい。保護者や家族が障がいを理解して支援につながるような取組と、地域が障がい児支援の必要性を理解する学ぶ場を増やしてほしい。

回答⑬：乳幼児期の早い段階から相談をしていくが、事実を受け入れられない保護者もいる。支援の強制や押しつけはできない。親や本人に寄り添ってやっていきたい。また、大切になるのは、障がいの子を持った保護者のケア。はぐくみサポート、5歳児相談、保健師が訪問するなど支援している。障がいを早期発見し支援することにより、保護者に理解してもらえる体制を現在整えている。

質疑⑭：さみずっ子保育園の二酸化炭素の排出量は従来から何%減ったのか。

回答⑭：従来の保育園との比較ではなく、現在の保育園が従来のエネルギーを使用した場合と地中熱を使用した場合を計算した数字。平成30年度は地中熱の利用で13.2tの削減である。

質疑⑮：誕生祝い金について、施策が浸透して効果が出ているのか。出産時だけ町にいてその後出ていってしまうことはないのか。

回答⑮：効果が出ているのかは今の段階では分からない。しかし、第2子、第3子出生のきっかけになっていると思う。制度について、改正前は町に1年間住所を置くことになっていたが、現在は3年間住所を置くことになっている。

質疑⑯：病後児保育事業は長野地域連携中枢を利用しているが、予算的にはどうなっているのか。また、ことばの教室についてはどうなっているのか。

回答⑯：病後児保育事業は町外者の利用は料金を徴収し、町内者は無料。事業自体は、人件費を含め町の予算で運営している。長野市の日赤と松代病院は病児保育も行っているので長野地域連携中枢として、飯綱町の人を利用できるというメリットがある。ことばの教室については、県費の先生が配属されているので人件費は県の費用である。しかし、光熱水費は町の予算となっている。

質疑⑰：子育て支援センターを建設するに当たり、町民会館横の公園がなくなると聞いた。子どもを安全に遊ばせる場所が狭まっていく。町として、安全に遊べる公園について力を入れて考えてほしい。

回答⑰：公園はなくなる。今ある遊具はそのまま移築する予定。支援センター1階のテラスはみんなが使えるようにという意見も出ている。

【教育費】

□教育総務費、小学校管理費、中学校管理費等

質疑①：教員住宅の草刈りはどうなっているのか。

回答①：教育委員会の管理である。草刈りは教育委員会で実施する。

質疑②：奨学金の金額を増やすことは考えていないのか。金額を増やしたり、返還について検討したり、しっかり町の奨学金を利用できるようにしたらどうか。

回答②：増額の検討や奨学金の免除については慎重に考えたい。

質疑③：教育ファーム事業について、当初の予算と比べ執行率が低いと予定されていた事業が実施されなかったのか。

回答③：事業自体は全て実施した。統合したことやコミュニティスクールが発足し、ボランティアで実施したことにより執行率が低くなっている。

質疑④：決算報告書の教育費国庫補助金の公立学校施設整備費国庫補助金について、予算は計上してあるが、歳入は0円だがどうしてか。

回答④：小中学校の空調設備（エアコン）の事業が繰り越しになったためである。

□社会教育費、公民館費、生涯学習費、施設管理費、文化財費等

質疑⑤：男女共同参画推進委員の男女の比率は。男女共同参画フォーラムを実施しても参加者は女性が多い。男性を巻きこむ方策はどのようにしているのか。区長や組長への呼びかけはしているのか。男性の委員がもっと多くいると

文字どおりの男女共同参画となるのでは。

回答⑤：社会教育委員、人権教育委員等に呼びかけはしている。男女共同参画推進委員に区長会からも推薦を得ている。委員は 11 名のうち女性 9 名、男性 2 名。

質疑⑥：マレットゴルフ場の管理はどうするのか。

回答⑥：管理は町で行う。マレットゴルフ協会に協力をお願いしていく。

質疑⑦：図書館まつりについて、参加者の人数は。

回答⑦：確認して後日報告する。(178 人参加)

質疑⑧：町の中にもスポーツで優秀な選手がいる。町として、力を入れてアスリートを育成することはできないか。

回答⑧：指導者の確保が難しい状況である。

質疑⑨：2～3 年前からエナジードリンクを摂取する人が増え、体調を崩すという話もあるが、中学校の様子はどうか。危険性については啓発をしてほしい。

回答⑨：中学校からそのような話は聞いていない。

質疑⑩：歴史ふれあい館のリニューアルについて、検討委員会の委員は決定したのか。

回答⑩：委員について、現在検討中であるが素案はできている。委員は 10 名以内で構成し、年度内に委員会を 2 回開催する予定である。

質疑⑪：海洋クラブの体験会は町民でなくても参加できるのか。政策サポーターから、カヌー体験は他の地域にはない良い体験の場なので、町を知る入口になるのではないか、あまり知られていないのもっとアピールできないかという意見が出ていた。

回答⑪：町民以外も参加できる。他市町村からも体験参加の申込みがある。また、一般試乗会も実施している。町の教職員研修でカヌー体験をしている。PR については検討したい。

質疑⑫：天文事業はリニューアルに合わせて場所を変更するということはあるのか。スポーツ施設の明かりで星が見えないという話もある。

回答⑫：検討委員会を開催する際に伝えたい。

□学校給食共同調理場費

質疑なし

平成 30 年度飯綱町一般会計歳入歳出決算のうち、当小委員会で審査した内容は以上のとおりです。これらの決算認定について、反対の意見はありませんでした。

以上